

アウクスブルク滞在記

河合 真奈美

1日目

長い空の旅を終えた後、ミュンヘン空港から私たちが向かったのはドイツの伝統料理が味わえるレストランだった。暖かい木漏れ日がさすレストランの半屋外テーブルで、民族衣装を着た店員さんが運んできてくれた料理を食べながら、やっとドイツに着いたことを実感した。



レストラン「アルペンホーフ」

その後、アウクスブルクに移動し、ホストファミリーのアカーマン家の皆さんと初めてお会いした。ホストシスターのLeonieは、疲れていないかなど色々気遣ってくれて、和やかな時間を過ごすことが出来た。

ホストファミリー宅に帰った後、新たにアカーマン家にホームステイをしているイタリア人の女の子2人を紹介されたが、疲れ切っていたのであまりちゃんと自己紹介できなかったように思う。また、もう一人いる留学生の女の子とはこの日は会わないままだった。その後、部屋を与えられた後、知らぬ間に眠ってしまい、夕ご飯のラザニアを食べないまま一日目が終わった。

2日目

この日は嬉しい出来事があった。初めての視察先のFCアウクスブルクのスタジアムで、宇佐美貴史選手とお会いすることが出来、サインを貰ったり、一緒に写真を撮っていただいたりした。その後向かった市庁舎の黄金の間や、アウクスブルク大聖堂では初めて見る天井画や、高く荘厳な天井を持つ建築物に圧倒された。その日の最後の視察先である新市立図書館では、日本にはない設備（ピアノ室、寝転がって本を読むためのクッション、ボードゲームやPlayStationのゲーム）を利用者なら自由に使えるということを知り、今まで持っていた図書館の固定概念が壊された視察だった。夕食はアウクスブルクの日本定例会の皆さんとドイツ料理と一緒に作る体験ができた。さらに日本企業のドイツオフィスで働く社員の奥様から、直接ドイツの労働環境（残業がないことや、長期休暇について）を聞くことができた。



新市立図書館のクッション

3日目

性能の高いバイオマスエネルギー施設の視察後、現存する世界最古の福祉施設であるフッゲライに伺った。大変のどかで美しい敷地内を歩いたのち、作られた当時のフッゲライでの人々の暮らしを再現した家に入った。事前に日本のTVで現代のフッゲライでのゆとりのある暮らしを見ていたので、当時の家を見て対比ができ興味深かった。午後に向かったアウクスブルク大学ではホストシスターの Leonie が大学を案内してくれて、アウクスブルクやドイツの大学事情を垣間見ることができ、ドイツに留学したいという気持ちが強まった。

4日目

4日目は最も気持ちの落差の激しい日だった。4日目最初の視察先はダッハウ強制収容所という、ナチスドイツがユダヤ人や政治犯、同性愛者などのために作った強制収容所の一つだったのだ。覚悟はしていたが、生々しい展示の数々に心がえぐられる思いだった。また、実際に建物が残っていることから、当時の様子を想像しやすくなっており、忘れられない場所になった。

午後はうってかわり、子供園の視察で子供たちの笑顔に癒された。とりわけ印象深かったことは、子供園の園児の主体性を育てる教育である。この子供園では、日本のように先生が園児の行動を決めることはごく最低限であり、子供たちは自らの意志で行動していた。

5日目

この日はアウクスブルクにある人形劇団「プッペンキステ」の博物館を訪れることが出来た。色彩鮮やかな人形の衣装や舞台、人形たちの豊かな表情などとても興味深い

ものが見られた。残念ながら、今回は公演を見られなかったが機会があれば次はぜひ見たい。午後は、民族衣装の試着体験があり、ディアンドルというバイエルンの伝統衣装を着させていただいた。同じ会場で夕方から、ホストファミリーたちと青年団のフェアウェルパーティーがあった。それまで、ほとんど喋っていなかったイタリア人の女の子がホストファミリーの一人として来てくれ、英語で何とか会話することができ、少し仲が深まり嬉しかった。フェアウェルパーティーでは、私たち尼崎市は漢字を使ったカルタ大会を催したが、なかなかの盛り上がりを見せた。去年のアウクスブルク市青年使節団だったホストファミリーの皆は「猫の恩返し」の主題歌である「風になる」を美しい歌声の日本語で歌ってくれて感激した。来年、新たなアウクスブルク市青年使節団が来てくれた際も何らかの形で恩返しをしたいと思った。



プッペンキステ人形劇団

6日目

この日はホストファミリーとともに過ごす一日だった。彼らは私をミュンヘンの観光に連れて行ってくれた。最初に行ったのはBMW博物館だ。昔のBMWのエンジンやバイク、そしてレトロな車を見ることが出来

る。正直エンジンやバイクの事はよく分からなかったが、昔の車は横ではなく前後にドアがあるユニークな形や、可愛らしい形の車体があって興味深かった。午後は大聖堂等さまざまなところに連れて行ってもらった。ただ驚いたのは、アウクスブルクに帰る地下鉄を待っていた時に、ドイツ人にドイツ語でどの電車に乗るのが正しいかを聞かれたことだ。その瞬間はなぜアジア人の見た目の私に聞くのだろうかと思議だったが、よく考えてみるとミュンヘンは本当に色々な国出身の人が住んでいるので、バックパックでも背負っていない限り、海外からの旅行者とミュンヘンの住民を見分けることは難しいのだ。

夜は Leonie がアウクスブルクのフェスティバルに連れて行ってくれた。高速で回る観覧車などの移動遊園地らしい乗り物にも乗ることが出来た。

7日目

この日はアウクスブルクではなく少し遠出してフュッセンへ向かった。甘いマスタードで食べるソーセージで腹ごしらえした後、シンデレラ城のモデルとなった城と言われるノイシュヴァンシュタイン城へ。城の内部は一見まともなのだが、ルートヴィヒ2世自身の風通しの悪そうな寝室と、“人工鍾乳洞”からはルートヴィヒ2世の狂気のようなものを感じた。また、夕方に訪れたヴィース教会では美しい天井画に目を奪われた。

8日目

この日の朝でホストファミリー達とお別れ。他の留学生や、ペット達とも別れの挨拶をしてホストファミリーと共に集合場所へ。

別れるときは1日目からの思い出が蘇り、日本に帰りたくない気持ちと、今までの感謝の気持ちで胸がいっぱいになる。

ありがとう！Danke!

さいごに

ドイツを訪れる形は色々あると思うけれど、私は本当に今回の尼崎市青年使節団という形で訪れられて心から良かったと思います。この使節団でアウクスブルクの人たちが私たちに与えてくれた暖かい心を少しでも返していきたいです。



ヴィース教会